

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月5日

上場会社名 阪和興業株式会社
 コード番号 8078 URL <http://www.hanwa.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 経理統轄
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 北 修爾
 (氏名) 秋元 哲郎

上場取引所 東大
 TEL 03-3544-2190

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	825,946	△35.1	8,194	△63.1	6,510	△71.5	10,707	160.1
21年3月期第3四半期	1,272,659	—	22,211	—	22,805	—	4,116	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	51.16	—
21年3月期第3四半期	19.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	444,236	106,586	23.8	510.96
21年3月期	479,379	94,912	19.7	450.05

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 105,923百万円 21年3月期 94,197百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
22年3月期	—	6.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,106,000	△28.1	14,800	△15.2	12,000	△20.0	14,100	135.1	67.37

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注)詳細は、4ページ「4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ「4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 211,663,200株 21年3月期 211,663,200株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 4,363,191株 21年3月期 2,358,475株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 209,301,812株 21年3月期第3四半期 211,088,766株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

1. 連結経営成績に関する定性的情報

【経済環境】

当第3四半期までにおける世界経済は、各国政府当局の金融政策や景気刺激策の効果により前年度第4四半期までの急落局面から下げ止まり、底入れの局面に移りました。特に中国では大規模な公共投資や消費奨励策が実需を底上げしており、他地域での実体経済回復の足取りが重い中であって、世界需要を牽引しております。一方、国内経済におきましても、設備投資や建設需要は依然低調なものの、各製造業は在庫調整に概ね目処をつけ、業界により景況感に差はあるものの、製造レベルの底打ちが見られるようになりました。

【業績の概況】

このような環境において、当第3四半期の連結売上高は、前年同期が第2四半期までの市況・需要上昇局面での高収益が寄与していたことに対し、当第3四半期は回復基調にはあったものの、市況、需要ともに低水準に推移したことなどにより、前年同期比35.1%減の8,259億46百万円となりました。また利益面では、営業利益、経常利益は販売収益の減少に加え、前年同期での市況急騰による在庫商品の販売益による増益効果がなくなったことなどから、それぞれ前年同期比63.1%減の81億94百万円、71.5%減の65億10百万円となりました。一方、第3四半期純利益は、特別損失として固定資産の減損損失を計上したものの、法人税等の減少などにより、前年同期比160.1%増の107億7百万円となりました。なお、法人税等の減少は、過年度に減損損失等の処理をした資産について譲渡契約を締結したことにより、税務上の損金算入を行うことによるものであります。

【セグメント別の状況】

鉄鋼事業においては、国内外の需要減少と市況水準の低下などにより、売上高は前年同期比35.8%減の4,567億89百万円となりました。また、営業利益は販売収益の減少に加え、前年度第2四半期までの鉄鋼市況高騰による在庫商品の販売益がなくなったため、前年同期比55.9%減の68億78百万円となりました。

金属原料事業においては、鉄鋼・ステンレスメーカーの生産水準の低下による原料購入の減少や市況の下落などにより、売上高は前年同期比53.8%減の632億96百万円となりましたが、営業利益は合金鉄価格が比較的堅調に推移したことから前年同期比14.6%増の16億68百万円となりました。

非鉄金属事業においては、前年同期に比べ低い価格水準にあったことなどにより、売上高は前年同期比24.2%減の356億6百万円となり、営業利益は在庫の価格リスクをヘッジしたデリバティブ取引の時価評価が当第3四半期末にかけてのLME価格上昇により評価損となったことなどから、前年同期比73.9%減の3億9百万円となりました。

食品事業においては、依然として需要、市況ともに低調に推移したことや円高の影響などにより、売上高は前年同期比15.3%減の566億23百万円、営業利益は前年同期比28.1%減の12億36百万円となりました。

石油・化成品事業においては、前年同期より価格水準が大きく下がったことや景気低迷による燃料需要の減少などにより、売上高は前年同期比33.0%減の1,811億42百万円、営業利益は前年同期比72.1%減の11億円となりました。

その他の事業においては、主に住宅需要の低迷による木材製品価格の低下などにより、売上高は前年同期比19.0%減の324億89百万円、営業利益は前年同期比53.0%減の12億50百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

【総資産・負債純資産の状況】

当第3四半期末の総資産は、売上高の低下に伴う売上債権の減少やたな卸資産の圧縮などにより、前期末比7.3%減の4,442億36百万円となりました。

負債は、運転資金需要の低下に伴う借入金の減少などにより、前期末比12.2%減の3,376億50百万円となりました。この結果、ネット有利子負債は、前期末比15.3%減の1,519億8百万円となりました。

純資産は、第3四半期純利益の積み上がりやその他有価証券評価差額金の改善などにより、前期末比

12.3%増の1,065億86百万円となりました。この結果、当第3四半期末の自己資本比率は、前期末の19.7%から23.8%になりました。

【キャッシュ・フローの状況】

当第3四半期においては、売上債権やたな卸資産が減少したことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローは、418億49百万円の増加となりました。一方、投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出などにより、99億22百万円の減少となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済などにより、409億67百万円の減少となりました。

これらの結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ91億82百万円減少し、258億64百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

【当期の見通し】

世界レベルでの金融危機は最悪期を脱しつつありますが、為替や金利動向、不良債権問題などの先行きについては依然不透明な状態にあります。また、実体経済面でも、米国を始めとする先進諸国の景気回復に時間がかかっている中で、世界経済の回復を牽引してきた中国が春節入りで一時的にペースダウンすると見込まれ、世界経済の回復基調にも停滞が懸念されます。

また、日本経済につきましても、国内製造業の製造回復は中国での需要の増加や各国の景気刺激策による要素が大きく、今後の為替や内外需要の動向によっては失速も懸念されます。設備投資や建設需要などの内需が依然低調な中では、先行きについてまだ楽観視できる状況にはありません。

このような経済環境の下ではありますが、当第3四半期の業績経過は、売上・利益ともほぼ想定した範囲内で推移しておりますので、平成21年12月9日に発表しました業績予想を据え置いております。現時点における通期の連結業績は、売上高 1兆1,060億円（対前期比28.1%減）、営業利益 148億円（対前期比15.2%減）、経常利益 120億円（対前期比20.0%減）、当期純利益 141億円（対前期比135.1%増）を見込んでおります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税金等調整前四半期純利益に一時差異に該当しない重要な差異等を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

（会計基準等の改正に伴う変更）

完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成19年12月27日 企業会計基準第15号）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成19年12月27日 企業会計基準適用指針第18号）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間に係る損益への影響はありません。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,024	35,200
受取手形及び売掛金	219,335	233,282
たな卸資産	69,675	90,765
その他	24,312	27,085
貸倒引当金	△933	△781
流動資産合計	338,414	385,552
固定資産		
有形固定資産		
土地	25,316	27,966
その他(純額)	19,788	18,440
有形固定資産合計	45,105	46,407
無形固定資産		
	736	733
投資その他の資産		
投資有価証券	39,595	28,022
その他	23,755	21,849
貸倒引当金	△3,370	△3,186
投資その他の資産合計	59,980	46,686
固定資産合計	105,822	93,826
資産合計	444,236	479,379

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	133,151	130,720
短期借入金	67,620	89,362
コマーシャル・ペーパー	1,000	—
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	94	189
賞与引当金	966	1,789
その他	18,848	30,426
流動負債合計	231,681	252,487
固定負債		
社債	—	10,000
長期借入金	98,855	115,150
退職給付引当金	17	25
その他	7,095	6,802
固定負債合計	105,968	131,978
負債合計	337,650	384,466
純資産の部		
株主資本		
資本金	45,651	45,651
資本剰余金	4	4
利益剰余金	63,427	54,650
自己株式	△1,413	△755
株主資本合計	107,670	99,550
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	652	△3,213
繰延ヘッジ損益	301	△248
土地再評価差額金	△180	△180
為替換算調整勘定	△2,520	△1,710
評価・換算差額等合計	△1,747	△5,353
少数株主持分	663	715
純資産合計	106,586	94,912
負債純資産合計	444,236	479,379

(2) 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1,272,659	825,946
売上原価	1,228,241	795,987
売上総利益	44,417	29,959
販売費及び一般管理費	22,205	21,764
営業利益	22,211	8,194
営業外収益		
受取利息	807	390
受取配当金	740	442
為替差益	3,723	1,077
その他	397	434
営業外収益合計	5,668	2,344
営業外費用		
支払利息	3,325	2,493
その他	1,749	1,536
営業外費用合計	5,074	4,029
経常利益	22,805	6,510
特別損失		
減損損失	—	3,055
固定資産売却損	212	—
投資有価証券評価損	9,733	—
関係会社減資為替差損	908	—
特別損失合計	10,854	3,055
税金等調整前四半期純利益	11,951	3,454
法人税等	7,763	△7,211
少数株主利益又は少数株主損失(△)	71	△42
四半期純利益	4,116	10,707

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	11,951	3,454
減価償却費	1,737	1,881
減損損失	—	3,055
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	720	349
受取利息及び受取配当金	△1,548	△832
支払利息	3,325	2,493
固定資産売却損	212	—
投資有価証券評価損	9,733	—
関係会社減資為替差損	908	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△28,322	8,708
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△18,968	25,537
仕入債務の増減額 (△は減少)	24,765	2,921
預り金の増減額 (△は減少)	△8,584	—
その他	△4,804	△2,417
小計	△8,872	45,151
利息及び配当金の受取額	1,488	789
利息の支払額	△2,890	△2,395
法人税等の支払額	△9,080	△1,696
営業活動によるキャッシュ・フロー	△19,355	41,849
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△344	△292
定期預金の払戻による収入	212	292
有形固定資産の取得による支出	△6,005	△2,498
有形固定資産の売却による収入	511	54
投資有価証券の取得による支出	△14,706	△6,121
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,076	186
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	40	△1,062
長期貸付けによる支出	△10	△9
長期貸付金の回収による収入	71	50
その他	△94	△521
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,248	△9,922
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	62,766	△33,093
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	△17,000	1,000
長期借入れによる収入	48,455	573
長期借入金の返済による支出	△13,580	△6,200
社債の償還による支出	△10,000	—
配当金の支払額	△2,526	△2,493
少数株主への配当金の支払額	△4	△4
その他	△640	△749
財務活動によるキャッシュ・フロー	67,469	△40,967
現金及び現金同等物に係る換算差額	△97	△284
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	29,767	△9,325
現金及び現金同等物の期首残高	14,178	35,046
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	142
現金及び現金同等物の四半期末残高	43,946	25,864

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

事業の種類別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

(百万円未満切捨)

	鉄鋼	金属原料	非鉄金属	食品	石油・ 化成品	その他	計	消去又 は全社	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	711,143	137,125	46,963	66,829	270,464	40,132	1,272,659	—	1,272,659
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	(—)	—
計	711,143	137,125	46,963	66,829	270,464	40,132	1,272,659	(—)	1,272,659
営業利益	15,597	1,456	1,186	1,719	3,940	2,658	26,558	(4,346)	22,211

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

(百万円未満切捨)

	鉄鋼	金属原料	非鉄金属	食品	石油・ 化成品	その他	計	消去又 は全社	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	456,789	63,296	35,606	56,623	181,142	32,489	825,946	—	825,946
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	(—)	—
計	456,789	63,296	35,606	56,623	181,142	32,489	825,946	(—)	825,946
営業利益	6,878	1,668	309	1,236	1,100	1,250	12,444	(4,249)	8,194

(注) 事業区分は、取扱商品によって区分しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。